

# たからづかしの家計簿

かけいぼ

「令和5年度決算」と

「これからの財政」について

分かりやすくご紹介しょうかいします！

- 01 予算と決算って？ ..... 01
- 02 市の会計の種類って1つじゃないの？ ..... 02
- 03 いくらくらいお金の出入りがあったの？ ..... 03
- 04 入ってきたお金の内訳うちわけは？ ..... 04
- 05 どんな内容にどのくらいお金を使ったの？ ..... 05
- 06 どんな目的にどのくらいお金を使ったの？ ..... 06
- 07 具体的にどんなところにお金を使っているの？ ..... 07
- 08 もっと身近な数字にできないの？ ..... 10
- 09 ローン残高の内訳うちわけは？ ..... 11
- 10 貯金（基金）はどのくらいあるの？ ..... 12
- 11 一般会計いっぱん以外の会計じょうきょうの状況は？ ..... 13
- 12 市の状況じょうきょうを測るものさしはないの？ ..... 14
- 13 これからたからづかしの財政はどうなっていくの？ ..... 16

# 01 予算と決算って？

まず「予算・決算」とは、「予算」が使う見込みを表すものであるのに対し、「決算」とは予算を上限として市民サービスを行った結果の数字となります。

一般家庭で例えると、

予算は、「食費にいくら、次に買う家電にいくら」とあらかじめ計画すること  
決算は、実際に使ったお金のこと

をいいます。

はじめに、令和5年度決算を基に市の財政を説明していきます。

予算



決算



# 02 市の会計の種類って1つじゃないの？

市の会計は複数に分かれています。1つだけの方が分かりやすいのかもしれませんが、例えば市民の中でも一部の方だけが加入している国民健康保険に関する収入と支出は、その他の一般的なお金と分ける必要があるため、会計を分けています。

一般家庭で例えると、生活していくためのお金とその他の目的のお金を別に管理していることと似ています。

## 特別会計

- 国民健康保険事業費
- 国民健康保険診療施設費
- 介護保険事業費
- 後期高齢者医療事業費
- 財産区（9財産区）
- 宝塚市営霊園事業費

## 一般会計

## 公営企業会計

- 水道事業会計
- 病院事業会計
- 下水道事業会計

\*自治体によって一般会計と特別会計の分けかたが異なるため、他自治体と比較できるように全国的に統一の基準で作る仮想の会計として「普通会計」があります。

宝塚市では概ね一般会計+宝塚市営霊園事業費=普通会計となります。

# 03 いくらくらいお金の出入りがあったの？

では、次に3つの会計の内、一番代表的な一般会計の決算状況について解説します。一般家庭でも家計簿をつけるとどんな項目にどれだけお金を使ったのかを客観的に見られるように、市の決算を見ることで市が過去一年間で、どんな市民サービスにお金を使ったのか、またどんなお金が入ってきたのかがわかります。

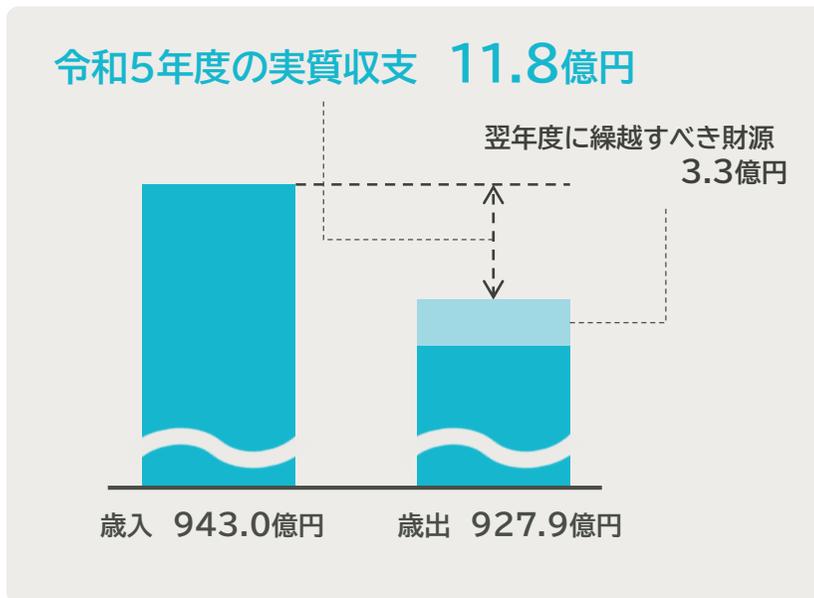
入ってきたお金（歳入）943.0億円

－ 使ったお金（歳出）927.9億円 = 15.1億円

ただし、この15.1億円の中には来年度使うことを約束しているお金（翌年度に繰越すべき財源）が3.3億円あることから、実際の令和5年度収支（実質収支）は、

15.1億円－3.3億円＝11.8億円

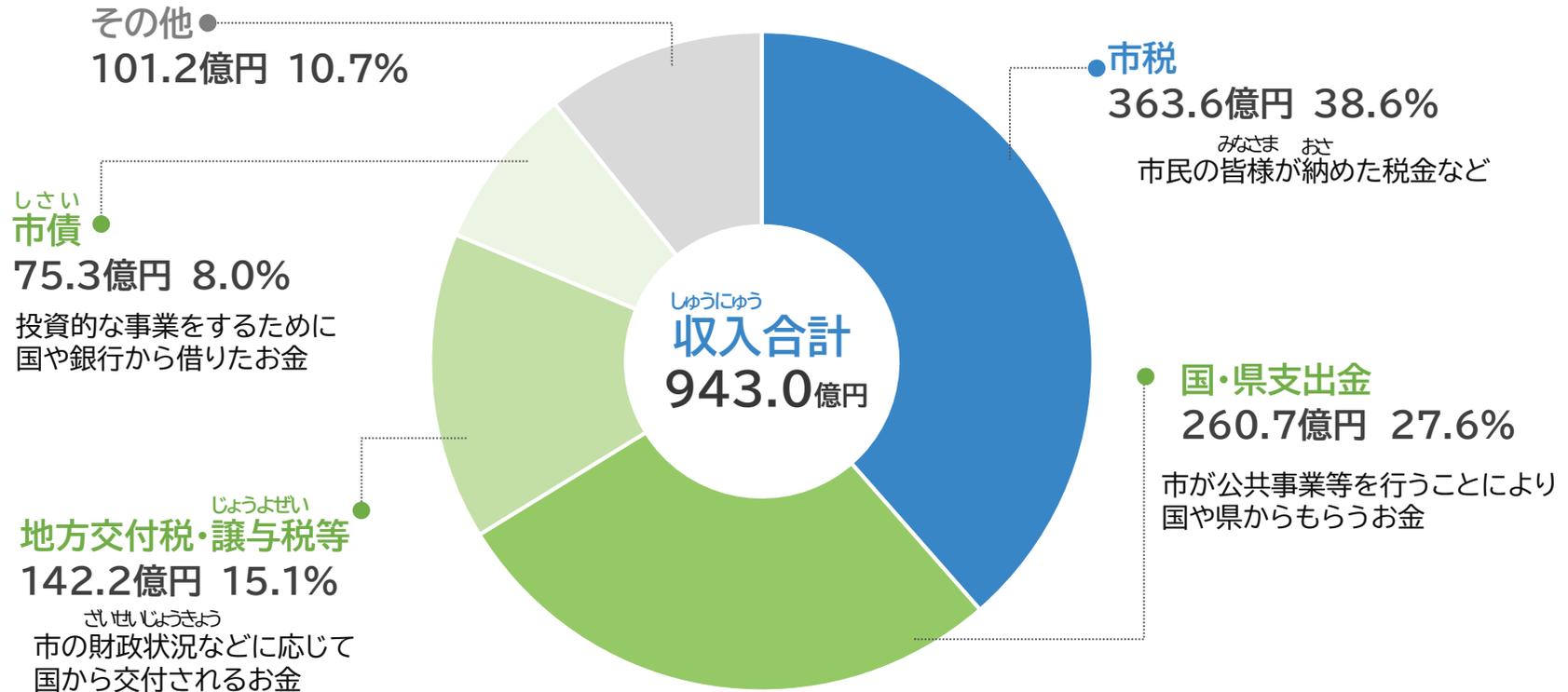
となり、使ったお金より、入ってきたお金の方が 11.8億円多かったということになります。



Q 「翌年度に繰越すべき財源」とは、どんなお金のことですか？

入ってきたお金（歳入）から使ったお金（歳出）を引いたものを形式収支と言います。この形式収支の中には、その年度中に完了し支払いも終わる予定であったが、何らかの理由で年度末までに工事等が完了せず、支払いが翌年度になるものがあります。そういったお金を翌年度に繰越すべき財源として計上しています。

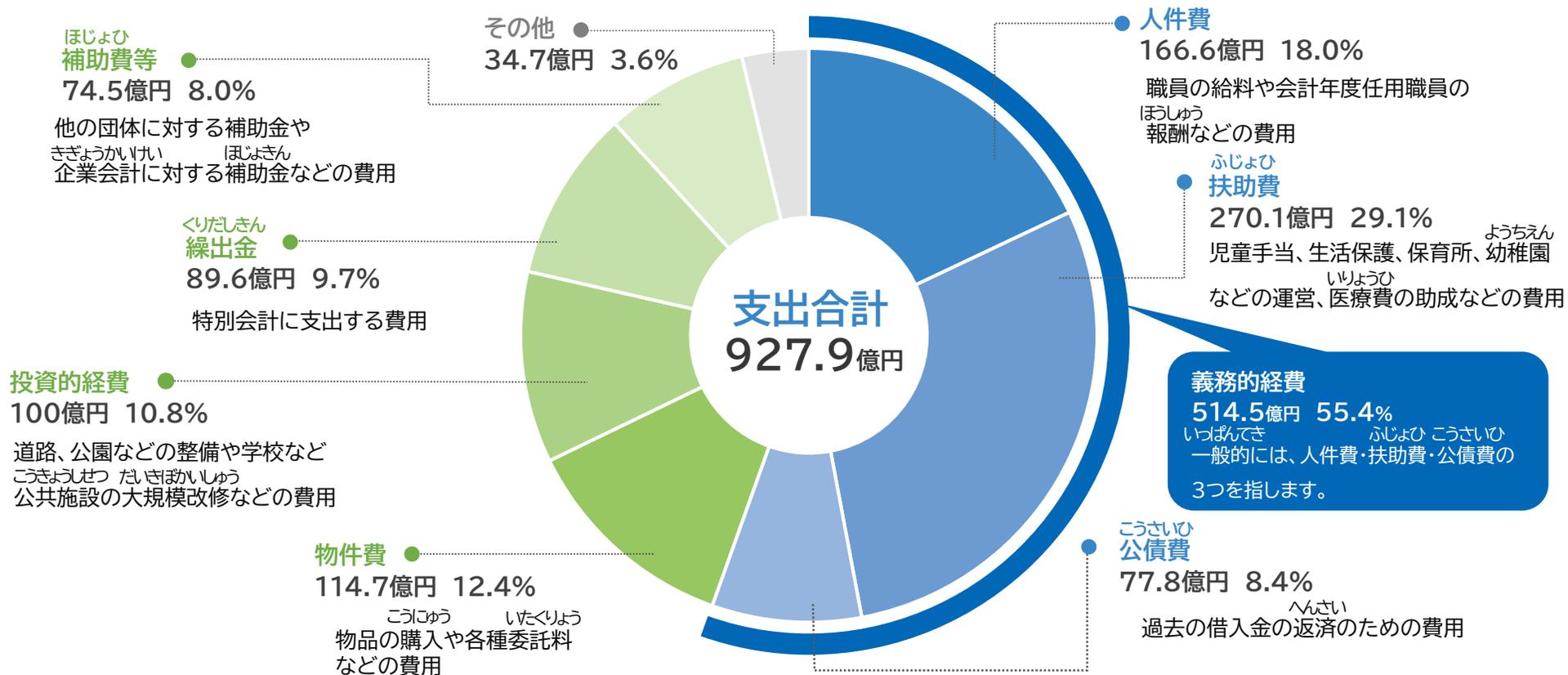
# 04 入ってきたお金の内訳は？



Q 入ってきたお金の内訳として、どんな特徴がありますか？

本市はコロナ禍前までは市税の割合が歳入の半分近くを占める特徴がありましたが、ここ数年は国から交付される補助金や地方交付税の割合が多くなっていることから、市税の割合は30%~40%程度となっています。

# 05 どのような内容にどのくらいお金を使ったの？（性質別）

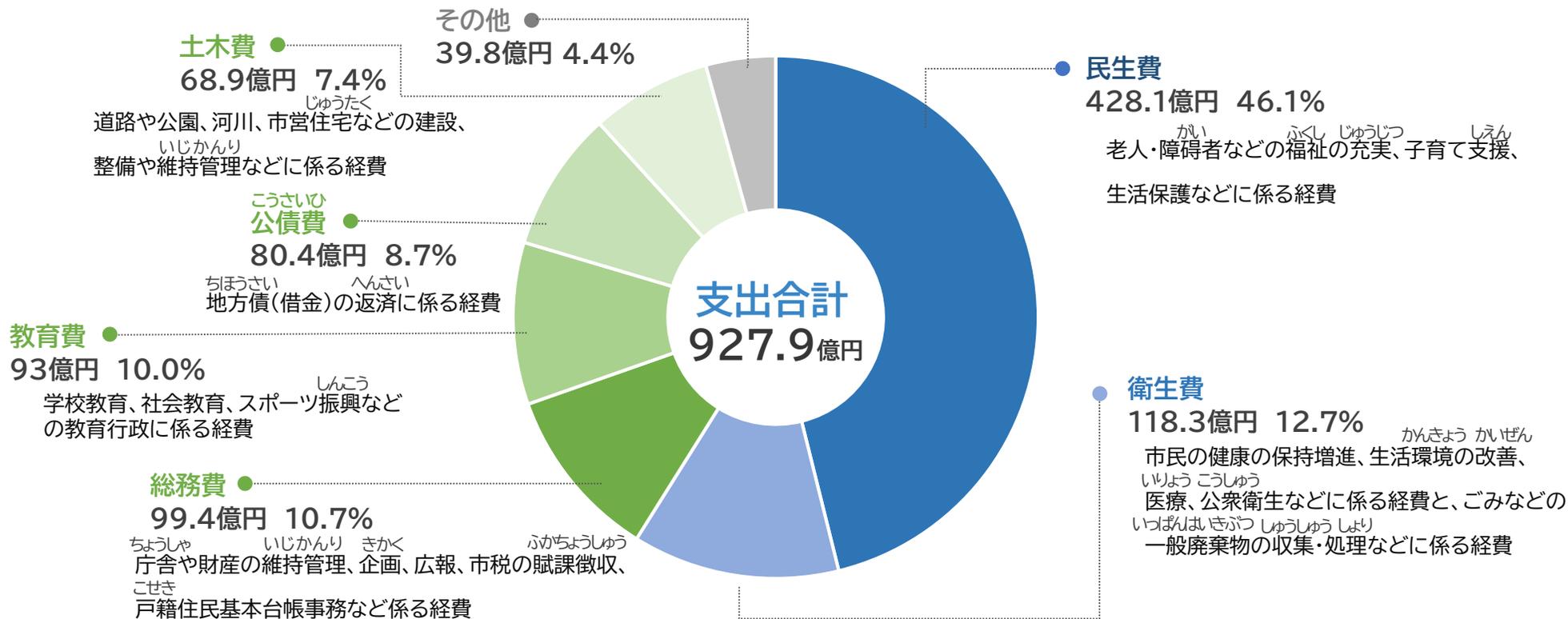


Q 「義務的経費」というものが半分以上を占めているのですね。「義務的経費」が多いとどうなるのですか？

義務的経費とは、簡単には減らすことのできない経費のことであり、予算に占める義務的経費の割合が高いということは、予算の自由度が狭くなり、まちづくりやその他の行政サービスを行うことが難しくなるという影響があります。多くの自治体と同様、宝塚市でも義務的経費は増加傾向にあり、財政を圧迫しています。特に補助費や繰出金については、高齢化率の上昇により、今後も増加が見込まれています。

# 06

## どんな目的にどのくらいお金を使ったの？（目的別）



### Q 前年度と比較すると、どうなの？

令和4年度の支出合計は899.5億円であり、比較すると令和5年度の支出は3.1%の増になりました。

特に、民生費においては、国の施策である価格高騰対策の給付金などにより20.5億円増加し、衛生費においては、新ごみ処理施設の整備や病院事業会計に経営支援を行ったことなどにより25.6億円増加しました。

# 07 具体的にどんなところにお金をつかっているの？

身の回りで、どんなところにお金を使っているのか、いくつかご紹介します。（グラフ内の額は、市民一人あたりの額）

しょうがいふくし しょうがい  
障害福祉サービス等の充実に関すること 152億9,511万円

じりつしえんじぎょう  
自立支援事業

しょうがいしゃいりようひじよせい  
障害者医療費助成

しょうがいじつうしよきゆうふじぎょう  
障害児通所給付事業 等



66,993円

ようじ じゅうじつ  
子育てや保育・幼児教育の充実に関すること 147億4,598万円

児童手当

保育所助成金

にゅうようじとういりようひじよせい  
乳幼児等医療費助成

こそだ せたいおうえんきゆうふ  
子育て世帯応援給付 等



64,588円

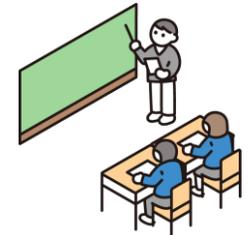
とくべつしえん ようちえん  
小・中・特別支援学校、幼稚園等に関すること 93億487万円

小・中学校の運営

とくべつしえん  
特別支援学校の運営

ようちえん  
幼稚園の運営 等

40,756円



こうれいしゃ

## 高齢者へのサービスに関すること

77億6,691万円

かいご いりょうひ くつだしきん  
介護サービスや医療費への繰出金  
こうれいしゃ うんちん  
高齢者バス・タクシー運賃助成  
じゅうたくかいぞうじよせいせいで  
住宅改造助成制度 等

34,019円



## ごみの処理やリサイクルに関すること

55億6,360万円

しゅうしゅう  
ごみの収集  
緑のリサイクル事業  
しよりしせつ  
新ごみ処理施設の整備 等

24,369円



## 道路や橋の維持・管理に関すること

29億1,368万円

いじほしゅうこうじ  
道路や橋りょうの維持補修工事  
街路灯の整備工事  
あんぜんたいさくこうじ  
通学路の安全対策工事 等

12,762円

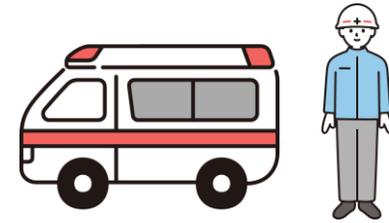


## 救急、消防に関すること

25億2,588万円

すみれ防災スピーカー(防災行政無線)  
防災情報システムの運用  
救命講習 等

11,063円

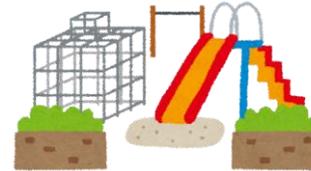


## 公園の<sup>いじ</sup>維持・管理に関すること

8億8,661万円

<sup>せいそう</sup> <sup>じょそう</sup> <sup>いたく</sup>  
公園の清掃・除草等の委託  
<sup>かいろじゅ</sup> <sup>せんてい</sup>  
街路樹の剪定  
<sup>いじほしゅうひ</sup>  
公園の維持補修費 等

3,883円



## まちの<sup>にぎ</sup>賑わいづくりや<sup>はってん</sup>商工業の発展に関すること

5億1,484万円

<sup>かんこうしせつ</sup> <sup>いじかんり</sup>  
観光施設の維持管理  
<sup>おんせんしせつ</sup>  
温泉施設の管理  
<sup>しえん</sup>  
起業の支援 等

2,255円



# 08 もっと身近な数字にできないの？

市の決算は言葉が難しかったり、額も大きすぎて、イメージしづらいかと思います。イメージを持っていただくため、ここでは月収42万円(年収約500万円。貯金の取り崩し、ローンの借入などを含む。)の家庭の家計簿に置き換えてみます。

収入		支出	
給与	37 万円	食費 (人件費)	7 万円
うち基本給 (市税・地方譲与税等)	19 万円	医療費・育児費 (扶助費)	12 万円
うち諸手当 (地方交付税・国県支出金等)	18 万円	ローンの返済 (公債費)	4 万円
貯金の取崩など (繰入金等)	1 万円	光熱水費・通信費 (物件費)	5 万円
ローンの借入 (市債)	3 万円	家の修理・家電購入 (投資的経費等)	5 万円
前月からの繰越 (繰越金)	1 万円	家族などへの仕送り (補助費、特別会計への繰出金等)	7 万円
合計	42 万円	合計	40 万円
		ローン残高 (地方債残高)	366 万円
		預貯金残高 (基金残高)	96 万円

## 家計簿を分析してみよう！

医療費・育児費の割合が大きいです。諸手当(国県支出金等)により、ある程度家計負担は抑えられています。

しかし、家や家電が古くなっているため、今後は今まで以上に家の修理や家電の買い替えが必要となっている状況です。

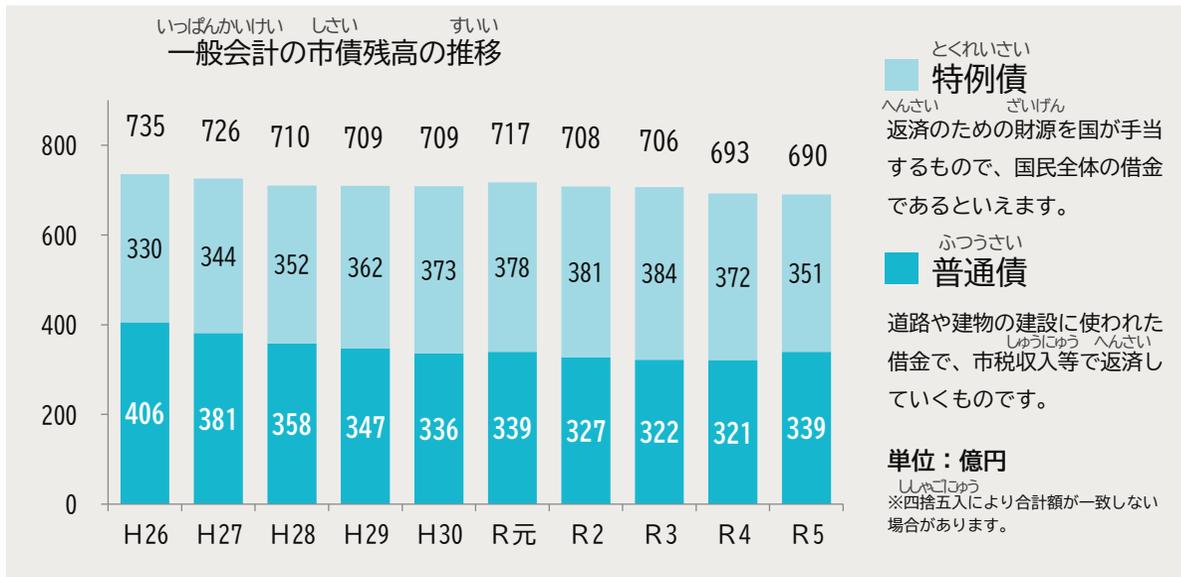
現在、新たに借りるローンの返済に備えて計画的に貯金(基金)を増やしているところです。

※実際には、家計とは収入・支出などの構成や考え方は大きく違うため、本来は置き換えることはできませんが、仮に置き換えた場合という視点で作成しています。



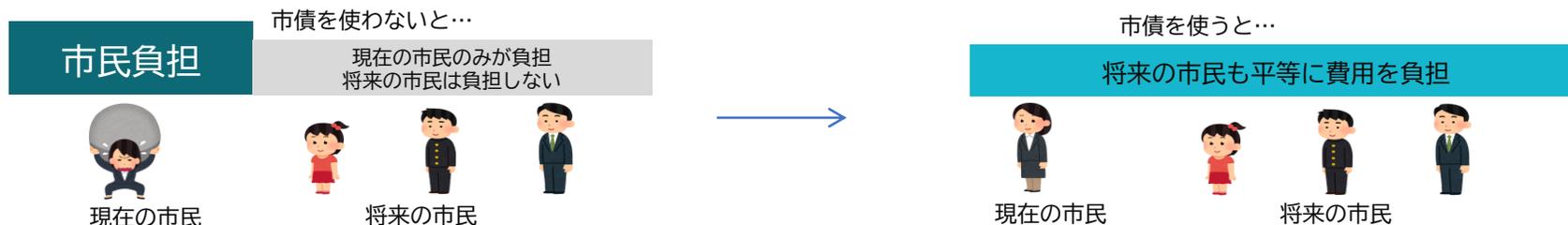
# 09 うちわけ ローン残高の内訳は？

ローン残高については近年ほぼ横ばいです。うちわけ内訳としては、とくれいさい特例債が半分程度になっていますが、これはローンへんさい返済相当額を国が後年度に交付税として100%わた渡してくれる制度であり、他のローンとは性質がこと異なります。



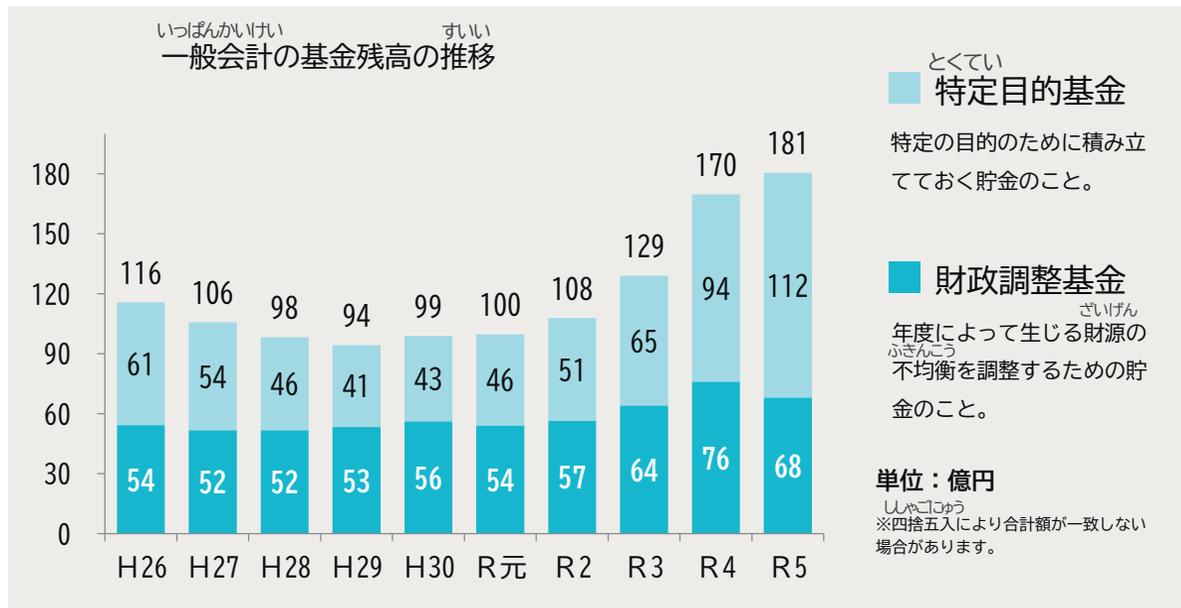
## Q どうしてローンを組むの？

市が公共施設や道路等を建設する場合、一時的に多額の資金が必要となります。その年度だけの収入で賄うと、他の行政サービスが市民の皆さんに提供できなくなるかもしれません。また、そういった施設は将来にわたって何世代もの方が利用します。その負担を現役世代だけではなく、将来世代も負担し、市民負担の公平性を保つ観点からローンを組んで事業を行っています。このローンのことを市債と呼びます。



# 10 貯金（基金）はどのくらいあるの？

いっぽん  
一般家庭でいう貯金にあたるものを市では基金と呼びますが、その基金の残高は次のグラフのとおりです。令和5年度は、財政調整基金をたくさん取り崩したことで減少したものの、いただいた寄附金を活用して、公共施設等整備保全基金（施設の老朽化修繕などの際に取り崩して使う基金）や緑化基金などへの積み立てを行ったことで基金残高が増加しました。



## Q どうして基金が必要なの？

いっぽん ちよちく  
一般家庭でも教育や旅行など、貯蓄目的を分けて積み立てることもあるかと思います。同じように市の基金もお金のやりくりするための財政調整基金や決まった目的のために積み立てている特定目的基金等があります。また、安定した行政サービスを提供するために、災害時や経済情勢の悪化など不測の事態に備えておく必要もあります。

とつぜん  
突然の災害や、経済情勢の悪化



いじ たいさく  
建物の維持管理や緑化対策など

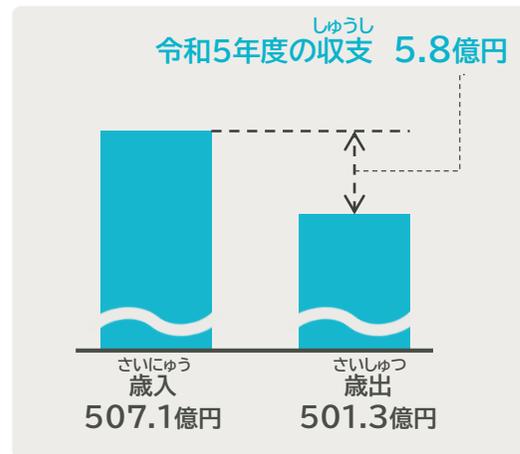


# 一般会計以外の会計の状況は？

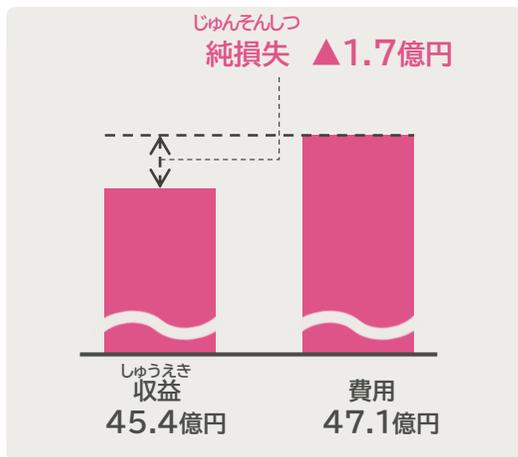
## 特別会計の状況

令和5年度の収支は、来年度使うことを約束しているお金（翌年度に繰越すべき財源）はなかったことから、5.8億円のプラスでした。

主なものとしては、国民健康保険事業費が2億円、後期高齢者医療事業費が1.7億円、介護保険事業費が1.5億円の収支プラスとなりました。

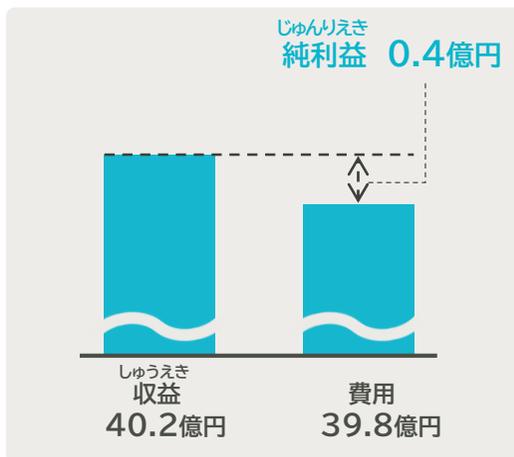


## 水道事業の状況



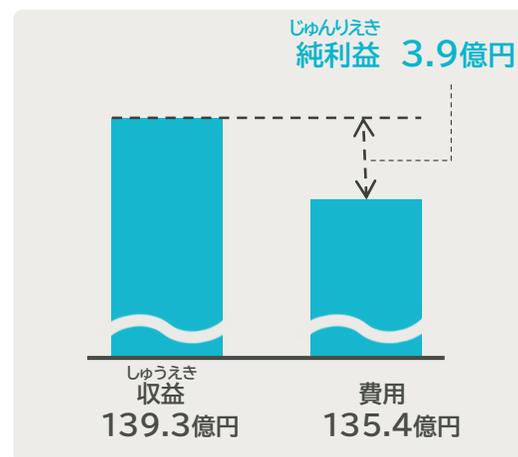
5年連続の赤字で、1.7億円の純損失となりました。

## 下水道事業の状況



黒字で、0.4億円の純利益となりました。

## 病院事業の状況



黒字で、3.9億円の純利益となりました。ただし、一般会計からの8億円の経営支援を含みます。

# 12

## 市<sup>じょうきょう</sup>の状況を測るものさしはないの？

いっばん 一般家庭でもローンの審査を受ける時に、所得<sup>しんさ</sup>やローン状況<sup>じょうきょう</sup>等を金融機関<sup>きんゆうきかん</sup>にチェックしてもらい融資<sup>ゆうし</sup>を受けることになると思います。

それと同じように市でも一定の基準を満たしていないと新たな借金ができないなどの国のチェック機能（健全化4指標）や財政的な自由度<sup>よゆうど</sup>・余裕度<sup>けいじょうしゅうしほりつ</sup>を表す経常収支比率という数字などがあります。

### じっしつこうさいひひりつ 実質公債費比率

しゅうにゅう 年間収入に対し、借金<sup>へんさいがく</sup>の返済額<sup>し</sup>が占める割合<sup>わりあい</sup>を示すものです。家計に例えると、年収<sup>ねんしゅう</sup>に占めるローン返済額の割合をいいます。令和5年度は、前年度に比べると0.4ポイント悪化し、5.0%となりました。

# 5.0%

※法令上、25%以上になると早期健全化基準というイエローカード状態。35%以上になると財政再生基準というレッドカード状態。



### じっしつあかじひりつ れんけつじっしつあかじひりつ 実質赤字比率/連結実質赤字比率

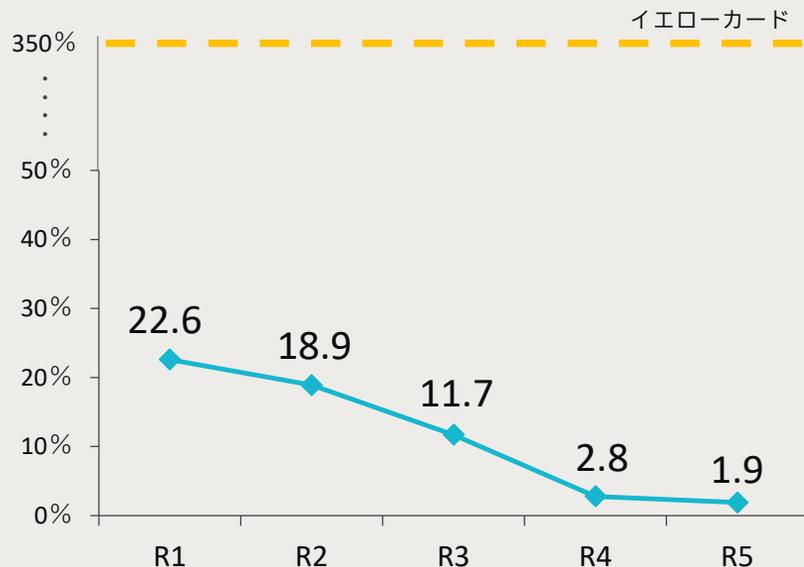
いっばん 実質赤字比率は一番身近な財布である一般会計<sup>いっばん</sup>等が赤字かどうかを示すものをいいます。

こうえいきぎょう 連結実質赤字比率は一般会計・特別会計・公営企業会計の3つの財布全体で赤字かどうかを示すものをいいます。

## 赤字は発生していません

## しょうらいふたんひりつ 将来負担比率

今後返済が必要な借金等の総額が、収入の何倍に相当するかを示すものです。家計に例えると、家や車のローン残高に一人暮らしをしている子どもや家族への生活支援費などを加えた合計額が年収と比べてどれくらいあるかの割合をいいます。令和5年度は、昨年度より0.9ポイント改善し1.9%となりました。



# 1.9 %

※法令上、350%以上になると早期健全化基準というイエローカード状態。

## けいじょうしゅうしひりつ 経常収支比率

人件費・扶助費・公債費などの経常的な経費が、地方税・地方交付税・地方譲与税などの経常的な収入に占める割合をいいます。この割合が高いと突発的な支出に対応できる弾力性が低い状態と言えます。令和5年度は昨年度より2.1ポイント悪化し95.8%となりました。

# 95.8 %

# 13 これからたからづかしの財政はどんなになっていくの？

## たからづかしの人口

全国的に人口減少や少子高齢化が進んでおり、これは宝塚市にもあてはまります。

働く世代の人が減ったり高齢者が増えたりすることで、市税などの入ってくるお金が大幅に増えることは見込めず、逆に、介護費や医療費などで出ていくお金が今までより増えていくことが予想されます。



## たからづかしにある建物や道路（公共施設）

みなさんの生活に必要な学校や道路、図書館などをはじめとする建物は、何十年も使えるものです。古くなった施設を今後も使い続けられるように維持していくには、修繕などに毎年たくさんのお金がかかります。例えば令和5年度では約40億円ものお金がかかっていて、これは今後さらに増えていく見通しです。

今の厳しい財政状況から考えると、今ある施設全てを維持し続けることは難しいため、施設の数や数を減らしたり、使い方を工夫したりする必要があります。



## これからたくさんのお金がかかる事業

宝塚市では、ごみ処理施設しよりしせつと市立病院がとても古くなっています。

ごみ処理施設は、令和5年度から本格的な建て替え工事が始まっていて、完成までには現時点で約463億円のお金がかかると見込んでいます。

市立病院については、現在建て替えについて検討けんとうしているところですが、こちらも完成までには現時点で約336億円のお金がかかると見込んでいます。



※新しいごみ処理施設の完成イメージ



※現在の市立病院

# これから10年間の見通し

(単位：億円)

区 分	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)	令和13年度 (2031年度)	令和14年度 (2032年度)	令和15年度 (2033年度)
① 市に入ってくるお金の予算	544.2	542.2	544.0	548.4	553.9	559.8	562.3	566.7	574.5	577.6
② 市から出ていくお金の予算	563.0	588.0	585.7	587.2	579.0	588.8	592.7	587.7	593.0	588.3
③ 予算での収支の差(①-②)	△ 18.8	△ 45.8	△ 41.7	△ 38.8	△ 25.1	△ 29.0	△ 30.4	△ 21.0	△ 18.5	△ 10.7
④ 決算までに使わなかったお金	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7
⑤ 決算での収支の差(③+④)	△ 2.1	△ 29.1	△ 25.0	△ 22.1	△ 8.4	△ 12.3	△ 13.7	△ 4.3	△ 1.8	6.0
収支マイナスが積み重なった金額	△ 2.1	△ 31.2	△ 56.2	△ 78.3	△ 86.7	△ 99.0	△ 112.7	△ 117.0	△ 118.8	△ 112.8

※新しいごみ処理施設の建て替えのお金が含まれています

※現在の病院の老朽化対応工事のお金と、新しい病院の建て替えのお金(見込)が含まれています

この表は、令和6年度から10年先までの、市のお金の収支の見込みです。

これまでのページでお伝えしてきたような<sup>きび</sup>厳しい状況の中で、今のままの<sup>けい</sup>経営を続けたとすると、10年後には、将来に<sup>そな</sup>備えるための貯金約55億円も含めて約113億円ものお金が不足してしまいます。

このような未来にならないために、今からお金の使い方や事業のやり方を見直すなどして、宝塚市の<sup>けい</sup>経営がこの先もずっと続けられるように取り組んでいます。

財政見通しの<sup>しょうさい</sup>詳細はこちら →

(市ホームページ「財政見通し(令和6年3月作成)」へリンク)

